

令和4年度第1回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：令和4年7月15日（金）午後2時～午後3時45分

場 所：豊田中央図書館6階多目的ホール

出席者：委 員 8名

事 務 局 6名（教育部、図書館管理課）

関 係 課 5名（学校教育課、保育課、子ども家庭課、
次世代育成課、市民活躍支援課）

指定管理者 3名（TRC・ホームックス共同企業体）

（1）図書館運営について

事 務 局：令和3年度取組実績について説明

指定管理者：令和4年度重点取組項目について説明

事 務 局：令和4年度取組状況について説明

委 員：ネットワーク館の新規登録者数が減ったとのことだが、その地域の登録者が一定程度登録したためこれ以上新規があまりない、つまり人口が増えないところはそんなに新規が増えるはずはないのでそういう話なのか。それとも図書館のネットワーク館の中で住民との繋がりが低調なところがあるということなのか。

事 務 局：図書館側からは全体の数字しかみえておらず、個別の理由については現時点で答えられる材料がない。

指定管理者：平成28年から令和3年度の比較で言うと、中央図書館は新規登録者3%の減で止まっている。ネットワーク館の合計は68.8%ということで3割程下がってしまっている。

文化振興財団に確認したところ、一概に全てのネットワーク館で数字が落ちているわけではなく、停滞や逆に増えているネットワーク館もあるということであった。理由は一つではなく、それぞれのネットワーク館で要因があると思っている。要因が何かについて、今後調べていく予定。

委 員：今後地域にとって有効な方策を見出すための資料になると思う。ぜひ地域による違いというのを見ていただけたらと思う。

重点取組項目について、前年度は重点取組が3項目あったが、今年度は2項目になっている。

アクションプランの取り組みの計画と重点項目との関わり合いはどうなっているのか。なぜこの二つを重点項目に選んでいるのか。また取組みの2におけるサービスとはどのようなものか。

指定管理者：昨年度の重点取組項目は、今年度の2項目に加えて広報活動があった。図書館だよりの新規発行や、オンラインイベントを開催することで一定の成果が見られたため、今年度は重点項目に入れていない。今年度の子ども読書活動の推進に関しては、アクションプランと歩調を合わせて作っている。

委員：おそらくそうかと思っただが、なぜこれが重点項目になっているのかわかるように、例えばアクションプランの中の取り組みが変わっている等こちらの資料の方にあると、市民にはその方が分かりやすい。

委員：令和3年度の重点取組が3つあり、今回2つになっている。令和3年度の3つ目の広報活動については、昨年度重点的に取り組んで一定程度の成果を得ており、ルーティンに取り組んでいることで重点取組から落としているということか。

指定管理者：はい。

委員：取組成果が反映されていると感じている。令和4年度の印象としては、大変子供重視と伝わってきてしまうところが逆にある。重点取組の方向性や項目も焦点を当てていくことがバランス的にも必要。電子図書館については、一口にターゲットを児童ティーンズ子育て世代にするといってもそこには違いがある。障害がある子どもや大人もアクセスしやすいとか、電子図書館で現地に行かなくても済むとか、電子媒体だからこそ利用可能な人たちを発掘するような手段になるとよい。学校に通学できている子供たちだけではないので、広い視野を持って取り組んでいただけるように期待する。

委員：昨年も図書館の皆さんが非常に一生懸命取り組んでいると非常に感心をしていた。昨年の実績は、コロナ禍でありながら90%まで戻したのはすごいと感心していた。

今年の重点取組について、こどもにしっかり本に親しんでいただく事はとても重要だと思っている。昨今は企業でも働き方改革の中で、キャリアをいかに自分で積んでいくかというところが非常に重要視され、大人の学び直しが注目されている。社員でもセミナーへの自主的な参加や、図書館での調べ物が大分盛んになってきている。大人へ図書館の活動をPRするのは非常に良いことと思うので、ぜひ取り組んでほしい。

事務局：大人向けの講座に関しても予定をしている。野村証券と協力した大人向けの講座を計画中。大人向けの広報については、商工会議所と調整を進めているが、なかなか難しい。何かいい案等があればいつでもご助言いただきたい。

指定管理者：重点取組項目で調べ学習の支援があるが、こどもだけではなく大人

の部もある。生涯学習の一環として大人にもたくさん参加していただきたいと思っている。藤島昭先生の講演会等のアプローチも考えている。

委員：丸善と図書館とのコラボを考えているか。また、豊田スタジアムのグランパスの試合開催時には、数万人のお客様がこの豊田の駅前を歩き来する。市民に親しまれる図書館として、場所的にも非常にいい場所なので、スポーツ観戦者を図書館へ引き込むようなPRや取り組みをしているのか。

事務局：図書館ではグランパスの展示やラグビーの展示を行っている。また、グランパスの試合の日は、図書館スタッフはグランパスのユニフォームを着て従事している。街一体となって応援ムードを作る一環として取り組んでいる。

指定管理者：丸善とは少しずつ連携を始めている。丸善へ「図書館だより」を設置いただいている。また、丸善のデジタルサイネージで図書館のイベント等の画像を流していただいている。

今後は、丸善といえば洋書に強みがあるので、洋書の選書の助言や専門書等の現物の選書の協力依頼、図書館から司書が丸善でおはなし会をして盛り上げていく等、win-winの関係を作っていけたらと考えている。

委員：スポーツ観戦者には子ども連れが多い。そういった子どもたちにスポーツを通して本に関心を持ってもらえるアクションがあると良い。

(2) 豊田市子ども読書活動アクションプランについて

事務局：令和3年度の実績を踏まえた令和4年度取組計画について説明

関係課：令和4年度取組計画について説明

委員：今まで図書館での取組みを知らなかった。今回、子どもたちの読書向上に向けて、各課で連携し、様々な取り組みの説明を聞いた。ただただ安堵している。

委員：コロナ禍でも道慈こども園は家庭読書講座を昨年度も今年度も実施していただけてありがたい。保護者からも、内容がとても良く、参考になり、これからも子どもたちとの良いコミュニケーションに本をどんどん取りいれていきたいと言われた。園での本の貸出冊数も増えている。

どくしょノートの園への見本の送付は、いつ頃を予定しているのか。園児向けの読書ノートの計画はどのようなものか。

- 事務局：どくしょノートの園への送付は、秋以降の予定。
- 委員：小学校との連携も上手くいくと思う。とても楽しみにしている。
- 事務局：園児向けのどくしょノートについては、例年秋に開催する家庭読書推進部会で調整中。おすすめ本のチラシや読書後に色を塗って記録をしていくようなカードの在庫がまだあるため、個数との調整をしながら園児向けの新しいどくしょノートの計画をあたためている。
- 委員：こども園や小学校のニーズや困り事を委員として中央図書館へ声を届けることで、中央図書館や図書館管理課を始め何らかの手立てや助けを行政が私達にしてくださっている。104校が少しずつ少しずつやりたいことがやれるようになってきている実感がある。
- 逆に中央図書館に本を借りに来る人や、ネット館に本を借りに来るという人たちが減っていることについて、子どもの数が減っているので単純には比べられないが、いろんな意味で子どもたちが読書をし続ける環境がなかなか教員も整えにくい。
- 子ども達は本が好きで、読み聞かせも好き、しかし子どもが自分の時間をもらったときに、なかなか読書を選ぶことができないのが今の現状。ティーンズや子育て世代に向けての電子書籍なら、タブレットを見ている時にふっと入ってくる子どもたちもいるのではないか。本を、借りに行く時間がなくても、本嫌いではない子たちが行く窓口には電子図書館は十分なり得る。
- 保護者からは、タブレットをやりすぎという苦情は多く入る。夏休みはタブレットを自宅に持ち帰りひと夏を過ごす。保護者からの苦情を覚悟しながら持ち帰りをするので、いろいろあるかなとは思いますが、電子図書館はいいこと。
- 親子読書については、お子さんが小さい頃は親も一緒に読み続けている。小学校になったときに、働き始めて手が離れてしまうと日々感じている。小学校では読書音読カードや読書カードを続けているが、親の熱意がだんだん薄れていく。ネット館でも中央図書館でも、子どもたちだけではなかなか最初は本を借りに来られない。借り方がわからない。親にとっても魅力のあるネット館であれば、親が本を読み続ける子どもたちを見守るようになると思う。その地区のニーズをきちっと把握すると、ネット館でもより本を借りられると思う。
- 委員：電子図書館ができたときには、ニーズがどれほどあるか分からないが、高齢者や老人ホーム向けに調査を行い、頭はしっかりしていても体があまり動かない人向けに昔読んだ本を気軽にタブレットで読める等対応できるような図書館であってほしい。
- 委員：昨年までと違い、連携課を明確に意識してアクションプランの説明

いただいたので素晴らしい。

委員の意見に関して、スポーツ観戦に来た人達に向けて図書に関心を持ってもらえる方向に行った方が良いと思う。

小中学校の頃はよく本を読んだが、高校や大学に行って部活が忙しくなると本なんて読む時間を作れなくなったものの、本が好きという学生が結構いる。子どもの頃たくさん本を読み、スポーツを通じてまた本を読むきっかけとなる仕組みを作っては。

具体的には、グランパスの選手やトップアスリートたちがどういう本を読んでいるのかブックリストにして、豊田スタジアムで観戦に来た人たちに配ってみる。サッカーの試合やサッカーの本、スポーツ科学的な本、サッカーの歴史の本を一時的に借り展示してみる。

何かそういうきっかけがあれば、教師や観戦者が、帰宅してから本を読んでもみるきっかけになるのでは。

電子図書館については、高齢化により、人口比では高齢者が増える。電子書籍については、高齢者向けに耳で聞く本のサービス提供ができるとよい。また、1人暮らしの高齢者が電子図書館にアクセスをして本が読む、あるいはオーディオブックが聞くことを利用した「高齢者の見守り」を一緒にできないか。

デジタル機器を使えるようにすることも図書館のサービスの一つ。年を重ねると本を読むときにやっぱり目が疲れる。デジタルの物を高齢者の支援のために図書館も協力して使えると面白いと思う。ぜひご検討いただきたい。

委員：アクションプランは、ターゲットを明確にして取り組んでおりクリアに見えるが、ターゲットを絞ると重点がぐっとかかり、見えていない子どもたちがいる。所管課と連携し、何か取りこぼしている子どもがいらないか情報交換しながら取り組んでいただけると嬉しい。

学校図書館、ネット館、中央図書館で、子ども自身が自分で本を選び家へ持って帰っていいんだって思うところまでがかなり大変。周りの大人が借りていいんだよって言い続けてあげないとそれはできない。そのハードルを越える部分が子ども読書活動。周りの大人をどう取り込んでどう協力してもらいながらこれを進めていくのか意識するとよい。

世代間交流ができるのは図書館という公共施設の大変良いところ。自分にとって懐かしい絵本について、大人がコメントやPOPを書きみると世代間交流にもなる。大人が読書を楽しんできた背中を子供たちが見て、自分も選んでいく。子ども読書活動であるが、子どもだけを見ないで広い視点で取り組んでいただけると嬉しい。

電子図書館は、ネット館でどうやってアクセスできるのか。豊田市の公共施設でW i e F i を使ってアクセスできるのか。アクセスのしやすさが重要になる。豊田市全体を見ながら取り組んでいただくとよい。

委員：第二の人生を歩まれる方へのアクションとして、商工会議所との連携がなかなか難しい件で、「商工会議所だより」のチラシ折り込みは10万円近くの費用がかかってしまう。商工会議所のホームページに図書館の講座案内を貼り付けるのは無料でできると聞いている。商工会議所のホームページを利用して、第二の人生を歩まれる方に図書館をより身近に感じていただくとよいと思う。

事務局：商工会議所に対しては、現在商工会議所に登録のある企業の従業員向けではあるが、PR方法がないか相談した。商工会議所だよりはさすがに載せられないが、企業へのメーリングリストに図書館の情報や図書館だよりのPDFがあるページを貼り付けるぐらいならできると回答いただいた。しかしメーリングリストの内容が、従業員に届くかどうかというのは保証ができないと言われている。ホームページに貼り付けさせていただくという話は一切していないので、今後打診をしたい。

委員：全体的なことや、所管課から何かあれば。

事務局：図書館でやっていることを全然知らなかったとのことで、教えていただき、全然PRができてないと反省している。商工会議所へは同席したが、反応が難しくなかなか難しそうな印象は受けた。例えば各企業へ個別でお願いし、夏休みのイベントの広報をその企業の従業員の方にお知らせとかできるとよいが、対応が可能か。

委員：喜んで協力する。実は働き方改革の中で、もともと自己学習をしましょうという動きがある。社員が自分の読んだ本を会社に持ってきて、お互いに貸し出そうという図書コーナーを作った。当然まだ本が少ない。こういう自分で学ぶときは、見本がやはり必要なんだととても感じている。図書館のPRも対応可能。商工会議所の窓口にも伝えておく。

事務局：ありがとうございます。

委員：企業の取り組みを図書館だよりで紹介し、それを広げるということも大事。ぜひ取材先にもなっていただくとよろしいかと思う。

—以上—